

令和8年4月16日(木)
9:10～10:40
川越町役場2階大会議室

令和8年度 川越町総合教育会議議事録

●会議参加者

城田町長 寺本芳教育長職務代理 寺本一委員 後藤委員 服部委員
稲垣教育長 (事務局: 学校教育課 課長・主監・課長補佐、生涯学習課 課長)
川越北小学校長 川越南小学校長 ※川越中学校長は学校行事で欠席

1. 開会

2. 町長あいさつ

例年、この4月に総合教育会議を行い、各学校の校長先生にどんな思いがあるのかを話してもらいながら、良い学校づくりにご尽力をいただいているところです。

行政だけではできることも限られており、地域・教育委員の皆さんとしっかりと学校づくりを行っていききたい、また、子どもたちがどんなことにもチャレンジできる教育環境づくりをしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

3. 各校からの報告(学校教育ビジョンを中心に)

(1) 川越北小学校

町の教育方針に従い、昨年度から、目指す子どもの姿を大切にし、子どもたちの姿を非認知能力の育成を教育目標に掲げています。学校には指導部が3つあり、その指導部がそれぞれに目標を持ち、新しい体制を作っています。

この教育ビジョンにしてから2年目になり、学力の向上であれば、「誰も取り残さない授業づくり」を目指し、自ら学ぶ子どもの育成を目指し、子どもたち全体を引き上げていきたいと思っています。

「豊かな心」であれば、自分の強みを生かし、自ら学ぶ子どもの育成を目指しながら、決まりを守る子や、もちろんベースはいじめを許さない子ども、昨年度の課題である運動好きな子どもの育成が、運動の日常化が弱かったかなと思うので、今年度はしっかりと進めていきたいと考えています。

もちろん「命を大切にする」「人を大切にする」ことはとても大事なことです。自己管理能力を初め、体力の向上や危機管理能力についても今後注目していく必要があると思っています。

今年度、配慮が必要な児童が安心して学校生活を送ることができるよう、北小学校にも通級指導教室を設置しました。

また国際教室も新しく設置していただきました。これらの教室が本当に必要な子どもたちにとってはとても大きなことであり、教育委員会には感謝をしています。

今年度も外部講師を招こうと考えています。今年は算数科、生活・総合的な学習、学級経営や集団づくり、不登校の対応、相談支援などを中心に研修を行っていききたいと思います。

地域の人たちとつながることも大切にしていきます。家庭科の授業やプログラミング教室、読書の推進など、地域の方の力を借りて、地域の中で育つ子どもという形で進めていきたいと考えています。

四日市のメリーゴーランドの増田さんに来ていただきました。

今年度は1週間の授業時数を28コマとしました。授業時数の確保をしっかりと行い、休憩時間や会議時間の確保をしたりしながら、教職員も子どもたちもゆとりを持って学ぶことができる体制を作っています。

(2) 川越南小学校

本校が大切にしている非認知能力の「あきらめない心」「挑戦する心」「わかりあえる心」の3つの心を大切にしています。これらをしっかりと育てることで、川越町の教育目標である豊かな心の育成、そして本校が大切にしている「いじめを許さない」ということにつなげていきたいと考えています。

本校には非認知能力向上で有名な先生に来ていただいております、授業の中で「どのように力をつけていくのか」を明らかにし、授業の中で、ギミック（しかけ）を作ることを柱にした内容でご指導をいただいております。

9月は、三重郡教育振興会の授業公開が本校で開催されます。ここでも先生に来ていただき、ご指導やご助言をいただくことになっています。

4月、私から3つのお願いを先生たちにしました。1つ目は、「子どもたちが安心して楽しく過ごせる学校にしていく」です。自分のクラスの子だけでなく、どのクラスの子も自分のクラスの子と思ってほしい、毎日の夕方の打ち合わせの中で、気になる子どもたちの共有を行っています。

2つ目は、「みんなで決めたルールは徹底して守る」です。3つ目は、「クラスづくり」です。欠かせないのは地域の応援です。町長さんが話されていましたが、地域の方や保護者さんが一緒になって子どもたちを育てていく気持ちを持つこと、これがすごく大切であると思います。

先生が、保護者に対し丁寧に対応することで、先生が保護者や地域の方から信頼されるようになることが大切だと思います。気になったことは、遠慮せずに話すことも大切だと思います。

対応は、早ければ早いほどスムーズにいくと思います。こじれてなかなか解決できなくなる前に、「保護者に相談をする」「隣の先生に相談する」などが大切です。

また職員みんなが気持ちよく仕事ができる学校にしていきたいと考えています。

挨拶プラス1も、川越町が大切にしていることです。朝、校門に立ち、子どもたちと挨拶を交わすことで、子どもたちから元気をもらっています。

ワークライフバランスをうまく取りながら進めていくこと、休日には自分の楽しいことなどをやっていただければ、次の週明けに先生たちも良い笑顔で子どもたちの前に立てると良いと思います。

そんなお願いを先生たちにしながら、学校が動いています。

事務局

中学校は校長が所要で欠席ですので、今後どこかの機会にお知らせします。委員の皆さん何かご意見等はございますか。

寺本芳委員

学校教育ビジョンは、学校を動かしていくにあたって、非常に大切なことでありますが、南小は、今年度変更した箇所はコンプライアンス、意識の向上と話されましたが、北小学校は変わった箇所はありますか。

北小校長

北小は、昨年度に変更しました。昨年度の自己評価アンケートを基に、防災の内容が保護者に伝わっていかないことがあったところや、自己肯定感が低いところに重きをおいて魅力ある学校づくりを大事にしています。今年の合言葉は「はあと&スマイル」です。

寺本芳委員

先生方がしっかりとビジョンについて話すことに大きな意味があると思いますし、学年部や指導部が中心となって具体案を作っていきますが、その都度で振り返りながら、達成していくようにやってほしいと思います。

学年部の先生や教頭先生と一緒に初任者を見ていく中で、周りが意識して声をかけていくことが非常に大切であると思います。意思疎通ができるような職場づくりをお願いしたいです。同時に、先生が本を読んでいる姿を見せるなど先生方が子どもたちに見本を示すべきだと思います、そうすれば子どもたちもついてくると思います。

学校のICTは、今後どのようになっているのでしょうか。

南小校長

本校は、学年の系統表を作っています。6年間の中でどんな力をつけていくのかを研修委員会から提案があり、それに従って進めていくようにしました。

これまではそれぞれの先生が思い思いに授業を行っており、すでにやってしまったとか、指導が前後したこともありましたが、整理を行うことができました。

寺本芳委員

6年生では、どのあたりまで学習することはできますか。

南小校長

例えばプログラミング教室でスクラッチを使って学習しています。

北小校長

過去には社会見学や修学旅行のあと、手書きで新聞を書いていましたが、今はワープロ機能

を使って書いています。子どもにカメラを持たせておいて、自分で写真を撮ってそれを新聞に載せたりもしています。
今後つけていきたい大切な力は、授業で提示する力です。自分の考えや思いなどをまとめて書き表し、それを説明する力です。マンマルシステムさん（株）に協力をいただきながら、できるようになってきました。

寺本芳委員

わかってきました。確かに自分の考えをタブレットに記入したりする姿が多くなってきたように感じました。一方、これまでのようにノートなどに鉛筆で書き表すことの時間は減ってきていませんか。

南小校長

最後の行きつく先は、「書きたい子は書いていいよ」「端末使いたい子は使っていいよ」として、「自由に選びなさい」なんです。しかし、書くことだけで終始してしまうと、パソコン入力力や、パソコンを利用した表現する力などがつかなくなってしまうので、どちらも大切であり必要です。打ち込むのが楽しくて力がつくソフトなどもあります。

北小校長

書く力も必要です。一方、自分をメタ認知するような形で、綴るということも大事だなと思います。今後、小学校から中学校に進んでいくと、パソコンを使って表現する力が育っていないと、社会のスピードについていけなくなってしまうのではないかと思います。

寺本一委員

先生方の勤務状態ですがどうですか。

北小校長

4月は45時間以内というのは現実的ではありません。
教頭や職場の中心となっていくような先生は、いろんな事案が起こったときに一緒になって対応を考えてもらったり、家庭訪問に行ってもらったりすることで時間がかかっています。学校は次の日が勝負であり、子どもたちも私たちも安心して明日を迎えるために、一緒になって何とか頑張ってもらっています。

寺本一委員

ビジョンを説明してもらったが、重点的にやってもらっているのはどの部分になりますか。

北小校長

一番は、川越町も言っている「豊かな心の育成」です。「人を大切にする心を育てる」ことを中心に持っていきたいと考えています。
魅力ある学校生活を、子どもたちの手で作っていくことを目指していくことや、子ども自身が参画していくことを目指しています。

南小校長

3つの心をそれぞれのクラスで先生が見本を見せてつくっていくことを大事に思い、取り組んでいます。子どもたちにも理解をしやすいようにイラストにしながら、各教室にも掲示をしています。何かあったら、子どもたちにビジョンと絡めて理解をさせるようにしています。子どもたちが自分自身を振り返り、絵を見てどのあたりにあるのかを意識して取りくんでいます。またわかりやすいように数値化しています。

寺本一委員

確かに数値化・見える化することでわかりやすいと思う。それを見て子どもたちが自分に課題を持って成長していくきっかけを作っていくと思う。それをお互いに進めていってほしいと思います。今の学力向上と非認知能力は相反するものなのか、お互いに高めあっていくものなのか。

南小校長

これは相乗していくもので、お互いに高まっていくものであると思います。
集会のときに、子どもたちに「3学期ふりかえってどうだったか」と聞いてみたら、ある子は「縄跳びでは、2学期ダメだったけど、3学期はあきらめない心で跳べるようになった」と話してくれました。漢字でも計算でも、自分にとって苦手なことでもあきらめずに頑張ったらできるようになる。学力も体力も少しずつでも上がっていくことが子どもたちにわかるものだと思います。

寺本一委員

相乗ということは、学力が上がらないと、非認知能力も上がらない？

北小校長

私は逆だと思います。非認知能力が高まることが、学力が高まることにつながって行くのではないかと思います。

北小校長

学力を育てる根っこになっている部分は、実は非認知能力で、学力は学習しなければ付かないもので、非認知能力が高い人であればいつからでも学習が始められる。自分が必要だと思うところをしっかりと目標さえ持つことができればいつがスタートになっても高まることができると思います。

とても大事な力だと思います。非認知能力を高めるためには、何をすればよいのかということが明らかではなく、それが伝わりにくいし、日常の生活の中にたくさんあると思います。意識されたときに子どもにつけていく力だと思います。教員も保護者も地域もそのあたりの共通認識があると、一緒になって子育てができていくと思います。

寺本一委員

お互いの信頼関係があり、一緒に生活していることでわかること。

良い子を育ててほしい。

後藤委員

あきらめない心、挑戦する心、分かり合える心を3つあげられていて、3つ全部大事だなと思って、どれ一つが達成できていなくてもよくなくて、バランスが大事だと思う。

ある秀でた子がいても、その子に思いやりがなかったり、分かり合えなかったりしてはだめなので、3つの心のバランスを考えながら一年間頑張ってもらえればよいと思う。

入学式のときに、校長先生のお話で、新入生の子どもに対して、「挑戦する心と友だちを思いやる心が大切です」と2つの話をしていましたが、1年生は新しいことばかりで、子どもが昼寝するようになりました。疲れるみたいで、毎日頑張って挑戦していますが、入学式のときに去年の1年生が自分の育てた朝顔から取れた種を新1年生の子に渡してくれたんですが、またそれに去年の1年生の子が一言書いてくれていて、「学校は楽しいよ」と書いてくれてありました。「書いてくれた子は1年間本当に楽しかったんだな」と感じた。本当に楽しい学校にしていくには「挑戦する気持ちを持って、いろんなことができるようになって達成感を味わったり、良い友だち関係を作ったりすることが、先生が話されたことが一年間できたらよいし、一年後に次の一年生に「学校は楽しいよ」と言えるようになる」といいなと思って感じた。

新学期が始まって、学校やクラスの雰囲気も変わっていく中で親として心配することも変わってきていて、北小学校のビジョンの3番の一番下に「命を大切に子ども」と書かれているが、ここが心配なところで、学年が上がってくると、放課後に友だちと遊びに行ったりすることが増えてきて、嬉しいことでもあるのですが、親として心配な部分もある。こういうところもビジョンに入れてもらっているのだから、親も子供に命の大切さを教えていかなければいけないですし、学校も入れてもらっていると安心できる。

後藤委員

担任から家庭に電話連絡をしてくれる基準はあるのか。

南小校長

特に決まってはいません。

経験の浅い先生なら、ベテランの先生に聞くのかもしれませんが、ベテランの先生が一律同じかと言えば違います。「電話した方がよい」とか、「お家へ行った方がよい」とか、けどそういうことを家庭訪問がありますので、去年はこんなことで連絡をもらって安心したんだよと、担任に伝えてもらえるとありがたいです。

南小校長

例えば保育園とか幼稚園に通っているときには、一人ひとり細かなことをお便り帳とかで伝えたり、放課後に迎えに来たときに話ができたりしていましたが、小学校では授業があるため、ゆっくりと返事を書いたりする時間がない、学年が上がると子どもが伝えることができるなど、直接家庭訪問に伺ったり、それで遅いのであれば遠慮なく学校へ連絡してもらっていいと思います。

北小校長

基本的には、職場が若いということもあり、あったことはできるだけ学年主任、生徒指導対応教員、管理職に伝えて、みんなで確認しています。

そのときの対応の仕方も気をつけて行うようにしています。誰かを傷つけてしまったようなときは、保護者の方が知っておいてもらった方がよいと思うことを確認して、大きくなっていくと、「家に帰ってお家の人に話さんとあかんよ」としておいて、「子どもさんから聞いていますか」と話して確認するようなことを心掛けています。でもマイナスな話が多いお子さんについては、活躍している内容を伝えたりあえてしたりしている。しかし、最近はそれでお母さんの方が参ってしまうような方も増えている。

南小校長

子どものことでなく、二年も三年も前にあったことを長い時間話されることもありました。

後藤委員

保護者の間でも「前の先生は電話してきたのに、今の先生はしてこないよね」
やっぱり気になる人もいるんだと思います。

南小校長

家庭訪問が大切です。こじれる前に、顔を合わせて関係を作っていく事が大切です。
やってよかったという声も聞きます

服部委員

学力向上、4年生ですが、こんな長い文章をタブレットでまとめたという文章を子どもに見せてもらった。すごいなと思いつつ、ノートなどに書くことを嫌がることもある。漢字が苦手な子どものことを考えると、書くことは大切に思うが。書いて覚えることも大切では。

北小校長

学力向上の中に、書くことも入れています。日記は入れていきたい。めあてと振り返りを書くことも大切にしています。感じてもらえるように頑張ります。期待してください。
体力の向上や子どもを中心に進めていきたい。体育委員会に頑張ってもらおうと思っている。
日頃の点検だけではなく、どんなことをしていきたいのかを考えてほしいと伝えています。
ダイナミックなことよりも日常が大切ではないかということで、体育委員会が各学年に声をかけにいたり、イベントを考えたりしています。

服部委員

学校公開は今後どうなっていくのか。

北小校長

4月は1年生の集中が続かないです。交通安全教室が続いたことで参加も減っていきました。
親御さん同士で顔を合わせておくことも大切だと思っています。そんな思いもあって、PTA主催の講演会を企画したりしています。
家庭で本当に本を読んでほしいと思っています。親子で本を好きになってほしいです。

服部委員

きょうだいでいる家庭は、1時間で何人かみなければいけないということもあるが、明日は講演会にも参加をしようと思っています。

北小校長

ありがとうございます。よろしくお願いします。

教育長

各校のビジョンにつきましてご説明ありがとうございました。いずれのビジョンにおきましても川越町のエデュケーション基本方針の核である「豊かな心」や「非認知能力」を取り入れていただいております、ありがとうございます。それぞれのビジョンのもと、この1年間、学校運営よろしくお願ひいたします。

加えて、校長先生方には2点お願いをさせていただきます。まず1点目でございますが、今月1日の受け入れ式の際、校長先生をはじめ新採や転入されてみえた先生方に、子どもたちは教師の鑑でもありお手本になって欲しいというお話しをさせていただきました。本日、校長先生方にさらにお願ひいたしたいことは、校長先生は学校の管理者であるとともに、学校という大家族の父親でもあり、母親でもあるという気持ちや意識をもって先生方に当たっていただきたいということです。

行政職出身の私が言うのもなんですが、教育職の基本は、子どもや保護者との人間関係作りに尽きると私は思っております。

一方で、昨今では、まず子どもに対しては常にパワハラ、セクハラを意識して接しなければならなくなってきました。例えば、叱るときに大声は上げられません。また、子どもたちと一緒に喜びたい時もスキンシップは厳禁となりました。

次に、保護者につきましては、一部の方々ではありますが、学校に対して性悪説をとり、学校側の言い分を頭から聞き入れようとはしない方々もみえます。

このような中で、先生方の中には自己肯定感や非認知能力が下がる一方で、豊かな心ではなくなってしまう先生方も見えます。そして、このような先生のもとでは、子どもたちも豊かな心は育たなくなってしまう。

これらのことから、校長先生方には親目線で、親心をもって先生方の心の糧となっていていただきますようよろしくお願いいたします。

次に二点目ですが、配布いたしましたペーパーをご覧ください。来週、全国学力学習状況調査いわゆる学調が実施されます。

学調に関しましてのお願いですが、昨年也是如此しておりますので、説明は省略させていただき、後ほど目を通していただきますようよろしくお願いいたします。

ただ、学調を来週に迎える中で、そのペーパーの下の方の下線部に書いてあります、「プラセボ効果」につきましては、ご理解いただき、学調に向けて子どもたちの気持ちをうまく乗せてやってあげますようよろしくお願いいたします。

町長

長時間ありがとうございました。一つ教えてほしい。各学校のビジョン作りをされて、子どもたちは1年生から6年生までの思いを先生たちが何かに伝えているのか、先生たちで共有してこんなことしてきましょうで終わっているのか、子どもたちもこんな学級にしたい、こういう3年生、4年生になりたいとかは、話をされているのでしょうか。

南小校長

子どもたちは、このビジョンに触れることはないです。先生たちの意識としてこのビジョンを持ちましょう。ただ先生も子どもも一番わかりやすいのは3つの柱ですので、ここだけは取り出して子どもたちと先生と一緒に取り組んでいます。

北小校長

はあと・スマイルです。はあとののはは、働く、あは挨拶、とはともだちです。

これをベースに、学年目標と絡めて学年集会を定期的に開いてほしいとお願いしています。ベースは、各学年団がそれぞれの学年目標を示して取り組んでいる形をとっています。

町長

わかりました。非認知能力と学習の関係で、いつも自分が思うことですが、過去に学力調査の結果が思うようにいかないときはありましたが、学校もしっかり対応してもらい、成果が表れるようになってきました。非認知能力と共に、これからもお願いしたいです。

各学校には感謝をしています。今後、教育環境をしっかりと、子どもたちを色んな分野の中で、思いを持って目標を持てるような環境づくりをしっかりとやっていきたいと思います。